

日本女性会議 2012 仙台概要

日本女性会議は、昭和 50 年（1975 年）の「国際婦人年」とそれに続く「国連婦人の 10 年」を記念して、昭和 59 年（1984 年）から女性の社会的地位の向上を目的にスタートし、毎年全国から 3,000 人規模の参加者が集う男女共同参画をテーマとしたものでは国内最大級のイベントです。この第 29 回大会を平成 24 年に仙台市で開催します。

仙台大会においては、多くの関係機関や市民と行政の協働による大会運営により、男女共同参画推進に向けた意識の向上や市民活動の活性化につなげることはもとより、東日本大震災による被災からの復興に官民が力を合わせて取り組む仙台や東北の姿を全国からの参加者に見ていただき、仙台の地から、災害からの復興と女性のエンパワメントについて発信を行いたいと考えています。

1 主催

日本女性会議 2012 仙台実行委員会・仙台市・公益財団法人せんだい男女共同参画財団

2 大会テーマ 「きめる、うごく、東北から」

震災で仙台をはじめ東北は大きなダメージを受けました。これからの復興に向けては、女性たちが地域づくりの当事者として、自分たちの地域社会の課題について考え、決定し、行動すること、すなわち「きめて、うごく」ことが重要であり、そのためのさらなるエンパワメントが必要になります。このことを、被災地である仙台・東北において、全国からの参加者と共有し、発信しよう、という思いを込めたテーマです。

3 会場・規模・参加費 仙台国際センター 約 2,300 名 4,000 円

4 開催日程 平成 24 年 10 月 26 日（金）～28 日（日）

| 月 日 | 時 間 | 内 容 | 会 場 |
|--------------|-------------|----------|------------------|
| 10 月 26 日（金） | 13:30～13:50 | 開会式 | } 大ホール,各会議室 桜 |
| | 13:50～14:10 | 基調報告 | |
| | 14:30～17:00 | 特別プログラム | |
| | 18:00～19:30 | 交流会 | |
| 10 月 27 日（土） | 9:30～12:00 | 分科会 | } 大ホール,各会議室 |
| | 13:00～14:00 | 記念講演 | |
| | 14:20～16:20 | シンポジウム | |
| | 16:20～16:40 | 閉会式 | |
| | 終了後 | エクスカージョン | |
| 10 月 28 日（日） | | エクスカージョン | |

5 開会式（主催者挨拶、祝辞等）

6 基調報告（内閣府による男女共同参画の現状と課題についての報告）

7 特別プログラム

3・11 からの被災地女性たちの状況、どんな困難があったのか、そこからどう復興してきたのか等、震災とジェンダーの問題について現状と課題を共有します。岩手、宮城、福島の前被災地で支援にあたる女性からの発言を中心に当事者性の高い内容とします。

8 交流会（700 名程度。参加者相互の交流を進めるとともに仙台を紹介します）

9 分科会

- (1)第一分科会 (復興・防災への女性の参画)
- (2)第二分科会 (女性が抱える社会的困難の可視化)
- (3)第三分科会 (DV、虐待などの人権侵害の平時からの予防)
- (4)第四分科会 (大震災、原発事故発生時の、妊婦、乳幼児等の母子支援)
- (5)第五分科会 (女性が力を発揮できる企業、雇用のあり方)
- (6)第六分科会 (多文化共生 東北に暮らす外国人が支援者になる日)

10 記念講演

1981年初の女性首相グロ・ブルントラント氏を生んだノルウェーでは女性の社会参画、意思決定の場への進出が大きく進んでいます。グロ氏の薫陶を受け、現在国会議員として活躍している、若い女性国会議員をお迎えし、自らの体験や信念など、変革の担い手となる日本の女性たちをエンパワメントするメッセージをいただきます。(グロ元首相より、ビデオメッセージをいただく予定。)

11 シンポジウム

1 日目からの議論や分科会・記念講演を受け、ノルウェーのグローバルな視点から、国内や地域における男女共同参画の推進及び女性のエンパワメントを、震災後の今、どうやって進めるべきかの課題、方向性、可能性を探ります。

12 閉会式 (大会宣言、次年度開催地紹介等)

13 エクスカーション

- (1)金曜日午前プラン (被災地視察) 1 コース
- (2)土曜日ナイトプラン (食事、観光) 1 コース
- (3)土日宿泊プラン (被災地視察) 1 コース
- (4)日曜日プラン (観光、被災地視察) 2 コース

14 被災者支援

- 東日本大震災の被災者・支援者等を、会議に招待する枠組みを作ります。
- 被災地女性の手作り品を参加者記念品として活用する、販売ブースをもうけるなど手法を工夫し、仕事づくりを支援します。

15 実行委員会 ※大会会長 奥山恵美子仙台市長

| | 氏名 敬称略 | 役 職 |
|------|--------|-----------------------------|
| 委員長 | 水野 紀子 | 東北大学 法学部長 |
| 副委員長 | 宗片恵美子 | (特活) イコールネット仙台 代表理事 |
| 委員 | 浅野富美枝 | 宮城学院女子大学 教授 |
| | 荒井美佐子 | 仙台商工会議所女性会 副会長 |
| | 小林 純子 | (特活) チャイルドラインみやぎ 代表理事 |
| | 上田 昌孝 | 仙台市 市民局長 |
| | 新田新一郎 | (有) プランニング開 代表取締役 |
| | 村口 喜代 | リプロネットみやぎ代表 (村口きよ女性クリニック院長) |
| 監事 | 大久 優子 | 連合宮城女性委員会 事務局長 |
| 〃 | 横山 英子 | あとりえ横山 代表取締役 |